■ runコマンド
r[un]デバッグ対象のプログラムを実行し、結果を表示します。
レイクポイントが設定されている場合にはブレイクポイントで停止します。

■　stepコマンド
step

■ continueコマンド
c[ontinue] [N]停止中のプログラムの実行を再開します。
Nが指定された場合は、N番目に到達した有効状態のブレイクポイントで停止します。
無効状態のブレイクポイントは、Nの回数にはカウントされません。
N: 停止するブレイクポイント回数

■ breakコマンド
b[reak] [file:]lineno
b[reak] [class:]method
指定した行番号またはメソッドにブレイクポイントを設定します。
行番号、メソッドにはそれぞれソースファイル名、クラス名を指定することが可能です。
ブレイクポイントが設定できた場合は、ブレイクポイント番号およびブレイクポイントの情報が表示されます。
設定されているブレイクポイントの情報は info breakpointsコマンドで確認することができます。
file: ソースファイル名（.rbファイル）
lineno: 行番号
class: クラス名
method: メソッド名

■ disableコマンド
dis[able] [bpno1 [bpno2 [... [bpnoN]]]]
bpno1～Nで指定したブレイクポイントを無効化します。
bpnoが指定されなかった場合は、設定されている全てのブレイクポイントを無効化します
bpno1～N: ブレイクポイント番号

■ enableコマンドen[able] [bpno1 [bpno2 [... [bpnoN]]]]
bpno1～Nで指定したブレイクポイントを有効化します
bpnoが指定されなかった場合は、設定されている全てのブレイクポイントを有効化します。
bpno1～N: ブレイクポイント番号

■ deleteコマンド
d[elete] [bpno1 [bpno2 [... [bpnoN]]]]
bpno1～Nで指定したブレイクポイントを削除します。bpnoが指定されなかった場合は、設定されている
全てのブレイクポイントを削除します。
bpno1～N: ブレイクポイント番号

■ deleteコマンド
d[elete] [bpno1 [bpno2 [... [bpnoN]]]]
bpno1～Nで指定したブレイクポイントを削除します。bpnoが指定されなかった場合は、設定されている
全てのブレイクポイントを削除します。
bpno1～N: ブレイクポイント番号

■ info breakpointsコマンド
i[nfo] b[reakpoints] [bpno1 [bpno2 [... [bpnoN]]]]
bpno1～Nで指定したブレイクポイントの情報を表示します。
bpnoが指定されなかった場合は、設定されている全てのブレイクポイントの情報を表示します。
bpno1～N: ブレイクポイント番号

■ printコマンド／evalコマンド
p[rint] exprev[al] expr
exprで与えられた式またはmrubyスクリプトを評価します
式またはmrubyスクリプトの評価時に例外が発生した場合は、発生した例外情報を表示します。
(デバッグは継続されます）¦パラメータ
expr: 評価する式または実行するmrubyスクリプト

■ listコマンドl[ist] [[file:]first[,last]]
指定された行のソースコードを表示します。 fileが指定されない場合は、次に実行される行を含む
ファイルが表示対象となります。
lastが指定されない場合は**first**から10行分を表示します。first、lastのいずれも指定されない場合
は次に実行される行から10行分を表示します。
file: 表示するソースファイル名(.rb)
first: 表示開始行番号
last: 表示終了行番号¦

■ helpコマンド
h[elp] [command]
commandが指定された場合は指定されたコマンドのヘルプ、commandが指定されない場合はコマンド一覧を表示します。
command: コマンド名

■ quitコマンド
q[uit]
rubyデバッガを終了します。